

## 原則と政局



オリンピックはいい。北京やロンドンのエネルギーで華やかな祭典を思い出すにつけ、リオの次は日本で開催できればどんなに素晴らしいことかと思うには思うのだが、東京都知事が石原さんから猪瀬さんになっても、東京都のオリンピック招致は、どこか気持ちが前向きになれないでいた。東日本大震災からの復興を盛り上げねば、日本の国際的プレゼンスの低下に心穏やかでない・・・そんな心境から、オリンピック招致を絶対に成功させなければならない、ライバルの2都市に負けたら徹底的に凹んでしまうのではないか、中国や韓国が日本より先に2回目のオリンピックを開催したらどうしよう、などと思ってしまう。それが嫌だ。そんな気持ちを世界から見透かされているようで、心が晴れやかでいられない。



女子柔道の監督が、信頼関係との一方的な思い込みから強化選手に暴力をふるい、訴えられて柔道連盟やJOCが右往左往している。急きよ、柔道連盟会長が国際柔道連盟に出向き、経過説明と謝罪をするそうだ・・・この時点で何を？ 恥の上塗りにならぬことを願う。

天津市や大阪市の高校では、イジメや体罰から生徒が自殺し、教育委員会や教師たちが右往左往している。天津市の高校に調査に入った尾木ママに、高校生たちが「尾木ママ、隠ぺいされないでね」と訴えたらしい・・・子どもにそれを言わせるのか、この国は。教育の現場は、明らかに度を越しておかしい。いや、日本全体が、天津市の高校のように、おかしい。



柔道とは、やわらの「道」だ。本来、勝敗や金もうけとは無縁の「道」を追い求めることが中心に据えられるものだ。ナニワ金融道なんていうものもあるけれど、道徳なき経済は犯罪でしかなく、「道」なきは、経済もスポーツも教育も、ろくなことにはならない。

体罰や柔道女子の暴力問題は、隠したり、過小評価したり、あやふやにしてはいけない。しかるに、すでに体罰は愛の鞭だとか、女子柔道の告訴は筑波大と他大学の勢力争いだとか、精神論や政局の話になっている。誰が悪いか、責任は誰にあるかという犯人捜しよりもまだ悪い。

「道」なき議論だ。「原則」がないからそうになってしまう。スポーツの原則は「人格の尊重」の一言に尽きる。それは「道」を求めることと同じで、教育全般に言えることだ。

原則がないから日本の政治も民主主義も経済もダメなんだと思う。東電が、虚偽（ではないと言っているが）報告で調査委の原発事故調査をさせなかったなんてのも道理が通らない。政局による政権交代は繰り返されるけれど、国が強くなった気はちっともしない。隠ぺいされ、何も知らされない中で自分では判断できない不快感が日本中に満ち、民主主義が育たない。暴力を容認する根も、そこにありそうだ。ここらで自分をしっかり立て直し、晴々したい。



今回のオリンピック招致は辞退してもいいんじゃないか？個人的には、どうも、真剣になれない。その代わりに、腹を据えて3、4年かけて日本のスポーツ界全体の体質改善に取り組み、オリンピックを開催するにふさわしいスポーツ文化大国となり、その自信をもって次の招致に臨むのがよい。そして今回は、全面的にイスタンブールを支援すればよい。あの親日国とイスラム圏を支援しておけば、その次は、イスラム諸国が日本開催を支持してくれるだろう。打算ではない。敬意をもって日本を支持してくれるように、今は本気で変わる意志を、世界に向けて発信すべきだ。スポーツ界を変えることは、日本の教育や政治や経済や民主主義を、まっとうで晴々したものにすることに、きつとつながる・・・リオの次の次の次はいやだけど。